



他人を頼る力・切り替える力も大切な育ち ～子どもの行為を肯定的に見ることのススメ～

子ども教育学科 西垣吉之教授 梅田裕介助教（共著）

5歳児の保育を参観させていただく機会がありました。A君は廃材を使って「戦いごっこ」で使う盾を作っています。発泡スチロールのトレイ底に、サランラップの空き箱を立てるように縦長に設置し、片面に長く切ったセロテープをつけ、発砲スチロールまで伸ばして固定しています。しかし、少しでも振ると簡単にとれてしまいます。A君は一面だけテープで貼るのでは上手くくっつかないと考え、反対の面も同じように固定します。それでもやはり吸着が弱く、すぐに取れてしまいました。するとA君はすぐに先生を呼び、「くっつかない」と訴えます。先生はそれを聞き「ガムテープでやってみたら？」と伝えると、A君は躊躇なくガムテープを取りに行き再度くっつけ始め、ようやくA君の思い通りの盾が完成し、他の子と一緒に戦いごっこをし始めました。

皆さんはこうした場面に遭遇したらどのように関わるのでしょうか？諦めることなく、他人を頼ることなく、A君に「どうしたらくっつくかなあ？」と投げかける人が多いのではと思います。それは子どもにも考える力を身につけてほしいからです。また、諦めるのではなく自分の力で最後までやり抜こうとする意志を持ってほしいからです。だから、このかかわり方は決して間違いではありません。でもちょっと見方を変えると、A君は「先生は自分が困ったことがあったときに、ちゃんと助けてくれる人だ」という他者を信頼する気持ちが育っていることが読み取れます。また、A君自身、自分の今持ち合わせている力がよくわかっており、この課題は自分には難しいということ判断していることがわかります。自分にはできないことがあることを素直に受け止め、信頼できる大人を頼って自分なりに課題を乗り越えようとしている姿を、みなさんはどのようにとらえられるのでしょうか？

3歳ころまでは無条件に「自分は何でもできる」という「万能感」を感じて欲しい時期だと思います。そのため、大人は子どもたちができるようになったことを心から喜び、褒め、肯定的に見る姿勢を基本にかかわっていきます。それは子どもに自分の未来の可能性を信じる力を育むことになるからとても大切な関わりだということは言うまでもありません。でも、一方で、自分の前に立ちはだかる課題を子どもはすべてクリアできるわけではありません。時に、子どもは立ち向かって乗り越えられないことがあることを知ったり、課題の前に挫折する経験もします。その時に、「できない自分」を知り、それを「受け止める力を育むこと」も、大人は意識していかなければならないのでは？と思うことがあります。そして、そんな時には他の人の力をちょっと借り、課題を乗り越えていく、こんな積み重ねを通して、子どもは、将来、自己課題にちゃんと向き合える人として育っていくのではないのでしょうか？

また、A君は保育者の助言を聞いてすぐに、セロテープからガムテープへと道具を変更しました。今までのやり方を捨て、「こっちがダメならあっちがあるさ」と、新たな方法と向き合ったのです。結果、A君は盾を完成させることができました。ガムテープへとすぐに考えを「切り替えた」ことで、A君はガムテープを利用すれば固定することができるという、今まで知らなかった新たな知識に気づくことができ、遊びも満喫することができたのです。

「人に助けを求め頼る」「切り替える」という行為には、その状況から「逃げる」というネガティブなニュアンスが感じられます。しかし、生涯にわたる子どもの育ちを考えると、もしかするとそれは「生きる上で必要な育ち」「新たな世界を知ることにつながる重要な意味をもつ育ち」と言えるのかも知れません。つい否定的に見てしまう子どもの行動であっても、一度立ち止まり、我が子の行動を肯定的に見てみてはいかがでしょうか？言い換えれば、こうした温かなまなざしを受けることこそが、子どもの育ちをより促すことに繋がるのだと思いますがいかがでしょうか？

2019 年度を振り返って

今年度も、たくさん子どもたちの笑顔・学生の笑顔そして地域の方々の笑顔に触れることが出来、嬉しい出会いもたくさんありました。
そんな1年間の思い出の一部を紹介します。

春



お母さんのためのリフレッシュ講座 (毎月)

趣味の講座です。少し手の込んだ作品を個々のペースで仕上げ、作品作りを楽しみました。初心者の方から慣れた方まで「作ること」を楽しみ、仲間作りにも発展して行きました。



シール遊び (毎日)

ラ・ルーラに遊びに来て毎回自分のカードにシール張り遊びをして楽しんでいます。



親子クッキング (不定期)

団子作りなど、五感を通して親子で調理を楽しみ食しました。時にはお弁当箱に詰めて「学びの森」へも出かけて行きました。

親子で遊ぼう (毎月)

親子遊びを楽しみながら、家庭では出来ないダイナミックな遊びや友だちを意識しながら様々な遊びをしました。



夏



砂遊び・水遊び

夏の遊びの中心はやっぱり水遊び。小さなお子さんから元気なお子さんまでそれぞれの楽しみ方で遊びました。



学生とのかかわり (随時)

主に教育学部・短期大学部幼児教育学科の学生が実習などでかかわりをもちました。また日常的に自主的な学生の学びの場としても活用されています。



ラ・ルーラ畑にて

玉ねぎや人参を引き抜いて楽しんだり、様々な旬な野菜の収穫もしました。



夏祭り

毎年恒例の学生主催の夏祭り。地域の方々と一緒に楽しいひとときを過ごしました。



秋



学びの森フェスティバル
 ステージにて「パプリカ」の曲に合わせて総勢100人以上の子どもたちと学生でダンスを発表。みんなの笑顔とママたち力作の衣装や髪飾りなどを身に着けてのダンスは拍手喝采でした。



木育広場 (四季を通して)
 今年は「秋の野遊びウォーク」を中心に主に学びの森に出かけて自然遊びを楽しみました。



作って遊ぼう (毎週土曜日)
 遊べるおもちゃを中心にパパやママと一緒に作って遊びました。同じ物でもそれぞれ工夫があり毎回楽しい時間となりました。火・土曜日の制作のコーナーも人気で大賑わいでした。



お話の時間 (毎日) 移動図書 (毎月)
 毎日のお話の時間に加え、毎月各務原キャンパス図書館より、司書さんによる読み聞かせや本の紹介にも来てもらいました。



冬



誕生会 (毎月最終金曜日)
 当月生まれのお子さんをみんなでお祝いしました。時には丁度居合わせた当月生まれのママや学生も一緒に祝いました。



ランチタイムコンサート
毎月4~5回
 吹奏楽部(主に教育学部学生)による生演奏。グループに分かれて毎週幅広い内容です。演奏後の楽器とのふれあいの時間も好評でお楽しみでした。

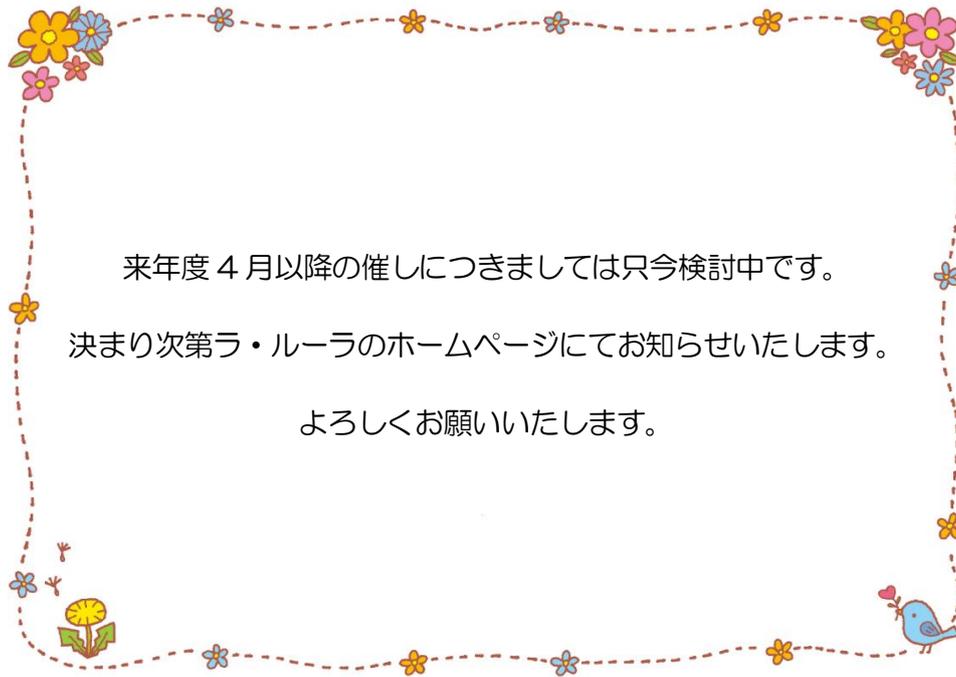


季節の催し・遊び
 来年度から小学校や幼稚園などに入学・入園するお子さんを祝う会です。小さな頃から遊んだら・ルーラで思い切り遊びました。



赤ちゃん集まれ
 赤ちゃんとパパママと一緒に過ごすおしゃべりサロンです。子育て仲間も出来ました。





来年度 4 月以降の催しにつきましては只今検討中です。

決まり次第ラ・ルーラのホームページにてお知らせいたします。

よろしくお願いいたします。

今年も大勢の皆さんとの様々な出会いがありました。

何でもないおしゃべりがきっかけになったり
催しで一緒に活動する中で友だち仲間ができたりなど
繋がりも広がりました。

年度末は残念なことに

感染症が拡大している状況を受け 1 か月ほど閉室となり
ご迷惑をおかけして大変申し訳ありませんでした。

ラ・ルーラもまた改めて開室できる日を楽しみにしています。

来年度もひとつひとつの出会いを大切にしながら繋がりを深め
皆さんと一緒に歩めるラ・ルーラでありたいと思っています。

元気に一緒に過ごせることに幸せを感じ

皆様に感謝すると共に

来年度もよろしくお願いいたします。

